



TAC管理会計論-テキストチェックゼミ(安達)

第6回 標準原価計算
2023年1月26日(木)19:00～

標準原価計算について

23年目標テキスト P 165～ P 224

原価計算基準 4, 40, 41, 44, 47

Q.

標準原価計算の目的を、我が国の「原価計算基準」に照らして4つ指摘してください。

Q.

標準原価計算における原価管理のプロセスについて説明してください。

Q.

標準原価計算による原価管理が有効に機能するために、事前管理の段階で注意しなければならない点は何ですか。

Q.

実際原価計算における原価管理の方法はどのように行いますか。

また、その際の問題点について説明してください。

Q.

原価計算基準に記載されている標準原価を全て挙げてください。

Q.

標準原価計算制度において用いられる標準原価は何ですか。

Q.
標準原価計算制度において用いられる標準原価のうち、

- ・ 原価管理に最も適する標準原価
- ・ 財務諸表の作成に最も適する標準原価
- ・ 予算編成に利用できない標準原価

は何ですか。理由を含めて説明してください。

Q.

現実的標準原価の

- ・ 価格水準
- ・ 能率水準
- ・ 操業度水準

は何ですか。

Q.

理想標準原価の

- ・ 価格水準
- ・ 能率水準
- ・ 操業度水準

は何ですか。

Q.

理想標準原価が原価管理に役立つと言われる理由について説明してください。

標準原価計算について

Q.
見積原価とは何ですか。

Q.

標準原価と予定原価の相違点を指摘してください。

標準原価計算について

Q.

製品単位当たりの標準原価を何といたしますか。

Q.

シングル・プランとパーシャル・プランについて、それぞれの意義と標準原価差異の記帳方法を説明してください。

Q.

修正パーシャル・プランは、どのような点でパーシャル・プランより優れていますか。

Q.

インプット法とアウトプット法について、それぞれの意義と特徴を説明してください。

Q.

後輩から下記のように質問されたらなんと答えますか？

「シングルプランとインプット法, パーシャルプランとアウトプット法って同じなわけじゃないですか～。なんで2つの概念があるんすかね。片方だけでよくないですか？」

Q.

標準原価差異の分析はなぜ必要なのですか。

Q.

会計的分析だけでは、差異の具体的な発生原因は判明しません。会計的分析の後に行われる、差異の具体的な発生原因の調査を何と言いますか。

Q.
混合差異とは何ですか。

Q.

直接材料費差異について、技術的分析によって判明する価格差異と数量差異の発生原因の具体例を挙げてください。また、それを管理可能な原因と管理不可能な原因に分類してください。

Q.

直接材料費差異の分析方法には、価格差異、数量差異、混合差異に分析する三分法と、価格差異、数量差異に分析する二分法があります。なぜ、通常、二分法では、三分法における混合差異を価格差異に含めて計算するのか説明してください。

Q.
例外管理とは何ですか？

Q.

製造間接費差異を二分法により分析した場合、予算差異と変動費能率差異を合わせて何と言いますか。また、固定費能率差異と操業度差異を合わせて何と言いますか。

Q.

製造間接費差異の分析において、消費差異とは何を指しますか。

Q.

製造間接費の能率差異を、標準配賦率に基づいて計算する方法の問題点とその解決策はなんですか。

Q.

実際原価計算制度における差異の会計処理を教えてください。

ちなみに、差異の会計処理はいつ行いますか？

Q.

標準原価計算制度における差異の会計処理を教えてください。

Q.

材料受入価格差異は、材料勘定で発生しますか。

Q.

直接材料費の歩留配合分析を行うための前提条件は何ですか。

Q.

直接労務費の構成能率分析を行うときの能率の考え方はどのようなものですか？

Q.

直接労務費の歩留能率分析を行うときの能率の考え方はどのようなものですか？

また、時間差異の分析を行うのにも関わらず、なぜ材料の数量について検討するのですか？

Q.

原価標準の設定方法には第1法と第2法があります。それぞれ第1法と第2法について、どのような方法なのか説明してください。

Q.

原価標準に仕損・減損の余裕分を含ませない場合、この原価標準で計算した原価をなんと呼びますか。

Q.

原価標準には、通常生ずると認められる仕損や減損の消費余裕を含ませなければなりませんが、含ませない方法も考えられます。

それぞれの方法の長所を説明してください。

Q.

第1法や第2法といった議論は、標準原価計算の手順において、いつ行われるものですか。

Q.

原価標準の設定において、仕損費や減損費を製品の標準消費量や標準直接作業時間などに含ませる方法の欠点は何ですか。

Q.

差異の会計処理において、標準原価計算のみに認められていた処理がありました。

なぜ、標準原価計算のみにこの処理が認められているのでしょうか。

第1法の欠点に触れながら説明してください。